

# 自由と自治を議論、互いに刺激

自由の森学園のある飯能市からほど近い東京都東久留米市に自由学園という学校があります。自由の森学園は開校30年に満たない若い学校ですが、自由学園は大正時代に創立した歴史のある学校です。先日、その自由学園の高校生6人が、自由の森学園を訪ねてきました。

校風はだいぶ違う二つの学園ですが、同じ「自由」という言葉を校名に掲げることもあり、過去にも生徒たちが議論したり交流したりといつことがありました。来校した生徒たちは、11月の「学業報告会」で自治について発表するグループのメンバーです。

学園の見学と授業に参加した後、放課後に3グループに分かれて議論が始まりました。

## 二つの学園

### はぐくむ

「本当は星野源（卒業生でミュージシャン）が好きで、彼が過ごした環境を見たいと思ったのがきっかけ」。そう話したのは自由の森を訪ねてみたいと言いつたA君です。彼は自由学園の制服や規則に疑問を抱いており、自由の森の印象については「押さえつけられず、生徒に個々があるように感じた」。

一方、自由の森の生徒は、自由学園の上級生が新入生たちを「教育」するという伝統に対して「そういう上下のつながりって大切じゃないかな」と受け取りません。「しっかり関わりあう関係がある」。

自由の森は人それぞれの自由という感覚。「やはり自治は必要だと思う」と発言しました。

それに対して、「自由学園は生徒によ

る自治を大事にしているが、生徒会があっても、学校生活の様々なことを変えていけるように感じていない」とA君。自由の森のB君は、「自由の森には生徒会が無く、生徒に決定権が無いことが問題」と主張します。

全体会では3グループの議論と感想を紹介されました。

自由の森の生徒は、「考える種をもらった」「方法は違っても同じような悩みを持っているんだなあと感じた」。自由学園の生徒は「自由への目指し方は違いますが、自分たちもまだまだ未完成だなあ」「どれが正解というものは無いけれども、自分自身の幅が広がったと感じる」。異質なものに出会うことで、自分たちのありようを再吟味して、課題を見つけ出す。参加した生徒たちは「もう一回話しあいたい」と口をそろえていました。

（自由の森学園理事長・鬼沢真之）